

**Q 7 治水計画で想定するような大規模な洪水が起こった時には、上流域で氾濫するため、下流への流出量は減少すると考えられる。治水計画を考える際にも、実態に即して、上流域での氾濫による流出量の減少を見込むべきではないか？**

A 7 河川整備の最終目標は、上流から下流まで、計画規模の洪水を河道で安全に流下させることにあります。上流域で氾濫する状況があるとしても、将来的にはこれを解消することとしており、そのため、治水計画を策定する際には、将来、上流の河道が整備され、氾濫が解消した場合に生じる流量増もあらかじめ見込んでおく必要があります。

「上流域での氾濫による流出量の減少」を計画に見込んだ場合、上流の河川改修はいつまでもできないばかりか、氾濫域での貯留量の減少につながる盛土等の規制が必要となります。県としては、一部の地域の犠牲を前提として、その他の地域の安全を確保するものではなく、流域全体の安全度の向上を図っていくこととしています。

